

# 新年の



美郷町長

松田知己

## 新

年、おめでとうございます。毎年迎える大きな節目の年越しと年明け。みなさまにおかれましては、昨年を振り返りつつ今年一年を展望し、希望と期待を胸に新春をお迎えのことと存じます。私も、あつと言う間に過ぎ去った昨年を思い起こしながら、今年一年の美郷町の進むべき方向に想いを馳せているところです。

さて、改めて昨年を振り返ります。昨年もみなさまのご理解のもと、各般の取り組みを推進できた年でした。地方交付税漸減への対応や公共施設等総合管理計画の策定着手。施設再編に伴う空き施設利用として、旧千畑南小学校活用の歴史民俗資料館・佐々木毅記念室等のオープンと、旧仙南東小学校活用の宿泊交流館ワクアスのオープン。健康長寿推進に向けて、血糖値測定キットや乳がんモデルなどを配置した「セルフチェックコーナー」の開設。産業振興を期

して、「美郷雪華酵母」による日本酒や酒粕利用のラーメン、シフォンケーキ、まんじゅうなど特産品の製品化支援。そして、町づくりの新たな可能性を生むネットワーク構築として、北海道中富良野町と栃木県那珂川町との協定締結など。

こうした昨年の動きを受けた平成28年は、引き続き財政健全化を基本に交付税漸減への対応に努めたいほか、公共施設等総合管理計画を確実に策定してまいりたいと思います。また、町づくりにおいては、昭和初期整備の六郷地区防火水道管の改修工事推進、歴史民俗資料館及び屋内スポーツ館の外構工事への着手、一定年数が経過した公民館の改修工事への着手など、公共施設等の適切な維持管理を推進してまいりたいと思います。また、住み良さを意識しながら人口減少に対応していくため、子育て支援策な

どの充実強化を図りたいほか、美郷町の存在感等を向上させるため、美郷雪華酵母活用の新たな特産品づくりの推進に加え、7月には湧水保全フォーラム全国大会を開催するなど、幅広く取り組んでまいりたいと思います。その結果、町民が美郷にさらに誇りを持ち、他者に自信を持って美郷を語ることで、自らの生活拠点が美郷で良かったと、心から思える町になってまいりたいと存じます。

これまで十一年の年輪を重ねてきた美郷町。さらにしっかりと根を張り、押しも倒れない存在となるよう、そしてさらに幹や枝が太くなり、強風にも折れない強さとなるよう、今年もがんばってまいりたいと存じますので、各般の取り組みに対するみなさまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます、新年のあいさついたします。

# ごあいさつ



美郷町議会議長

高橋 猛

**新** 年あけましておめでとうございます。今年こそは、あるいは今年も良い年であるように、様々な思いで新春をお迎えのことと思います。穏やかな年であることを願います。

平成の大合併から十年余が過ぎ、昨年は合併自治体の十周年記念式典が多く行われた年でしたが、ここに至り合併した自治体の評価が率直に話されるようになりました。本町に対する評価は総体的に「良いなあ」であります。もともと交流が深い地域であったこと、面的にもコンパクトな範囲であったこと、対等合併であったこと、いろいろあります。町が行ってきた様々な取り組みに、多くの方々からご理解ご協力をいただいていた結果だと思えます。議会として、も前向きな議論をしてきたと思っております。これからの町における今後の課題解決に向けて議論を重ねながら、より良い町づくりに向けて

努力してまいりたいと思っております。一方、議会内においても議会自体における課題や将来にわたって望ましい議会のあるべき姿について模索しており、現在、検討を重ねているところであります。

ところで今、国を挙げて地方創生ということでの流れを一極集中から地方へ移動させようとしております。遡って考えると、明治に入っで急速な工業化の進展に伴い労働力として農村部から人の移動が始まり、急激に人口が増加する時代に入り、戦後の団塊の世代による集団就職列車に象徴されるように、大量に工業地帯を中心とした都市部へと人は移動し続けました。人が集まるところには多様なビジネスが生まれ、その魅力に誘われて更に人が集まる、その繰り返していったと思えます。ところが、ここに変化が生じてきました。それは脱都会生活で

あり、ふるさと回帰の動きです。昨年、地方創生推進本部が、関東圏以外から東京圏に出てきている若い方々に、将来の定住先の意向について調査したところ、「近いうちに地方に戻る」「いずれは地方に戻りたい」を合わせると49・7パーセント、実に約半数の若い世代が都市からの移住を考えているという結果でした。また町が昨年、新成人に行ったアンケートでも、県外で暮らす人の内55パーセントの方が「いずれは戻りたい」という結果でした。富や華やかさ、便利さを求め続けてきた時代から、自分で納得のいく働き方、生活の質の充実を求めるようになってきたのではないかと思います。ライフワークを考えるきっかけとなり、定住につながるばと思えます。